

安心宣言

コンセプト

衛生面には、最大限の配慮をしています。いくら、器具を滅菌消毒しても、清潔・不潔をきちんと区別していなければ、何の意味もありません。唾液は透明ですので目に見えないので、注意が必要です。当院では、患者さんのお口の中を触った手で、キャビネットやカルテに触れることを厳禁にしています。ですから、スタッフがグローブをしたままカルテを持って、患者さんを診療室にご案内するようなことはしません。

(1) 手袋をしたままカルテなどに触れない。

(2) 患者さんごとに手袋を交換

お口の中に触れた手袋には、目には見えなくても唾液が付着しています。当院では患者さんごとに手袋を交換し、再利用することなく、破棄しています。これはエコロジーに反するとは思いますが、衛生上、必要なコストと考えております。当院では1週間もたたないうちにゴミ箱がグローブで一杯になります。これは医療廃棄物として専門業者に処分を依頼しています。

(3) 患者さんごとにタービン・エンジンを交換

当院では、患者さんごとに、タービンやエンジンを交換して、滅菌消毒しています。

(4) 患者さんごとにエプロン・紙コップを交換

これらの物品は、患者さんごとに使い捨てです。

(5) 足踏み式の流し

各診療スペースには、足踏み式の流しを設置しました。蛇口に手を触れることがないので、清潔です。

(6) ペーパータオル

診療スタッフが手を拭くのは使い捨てのペーパータオルです。

(7) 吸気・排気分離システム

診療で使う圧縮空気と、口腔内および口腔外吸引で吸った排気。この二つが入り混じらないように、機械室の中を分け、吸気用の換気口と排気用の換気口を設けました。排気用の換気口は、常時運転する換気扇の強制換気と自然換気の2つを設置しました。排気もただ分離するだけでなく、ウイルスまでもキャッチするヘパフィルターを通しますので、非常にクリーンで安全です。

(8) 第2のピンセット

治療台の上にある綿などを取るピンセット。これを患者さん毎に交換しなければ、そのピンセットには前の患者さんの唾液や血液がついたまま、次の患者さんが汚染されてしまいます。当院では、この汚染を防ぐために「第2のピンセット」を用意し、患者さん毎に交換しています。

(9) ワンタッチ式の容器

綿を入れる容器・薬のビン・バースタンドは、術者のグローブで触れることなく、「第2のピンセット」の頭などを使ってワンタッチで開くものを選びました。

(10) 薬液塗布の器具

歯に薬液を塗る器具は、使い捨てのものを用いています。薬液を入れるお皿も、使い捨てのものか、患者さんごとに交換して滅菌消毒しています。

(11) レジン充填の際の紙練板

レジン唾液で汚染ないように、アシスタントがレジンを紙練板の上に出し、それを術者が器具で取るようにしています。

(12) 根管治療の器具

リーマー・ファイルは、高圧蒸気滅菌が可能な専用ボックスに収納し、患者さんごとに高圧蒸気滅菌器で滅菌消毒しています。この専用ボックスは、根管長測定器としての機能もついています。

(13)電氣的根管長測定器の交換ケーブル

歯の神経の治療に用いる電氣的根管長測定器には、患者さんのお口に触れる部品が2つあります。1つは機器から取り外して消毒することができるのですが、もう一つの部品は機器と一体化していて消毒が困難でした。この問題については、市販の類似のケーブルを取付けることで解決しました。当院では、この市販のケーブルをたくさん用意しましたので、患者さん毎に交換して滅菌消毒しています。

(14)顔についた水を拭いたりした、診療で使ったタオルは、患者さんごとに交換しています。

(15)スタッフが準備室で手を拭く際、タオルを共有しないように、各自のタオルを使います。そのための専用のタオルかけを準備室の壁に設置しました。

(16)紫外線殺菌灯付キャビネット

モリタ製の紫外線殺菌灯付キャビネットを3つ設置しました。そのうち準備室には2つ設置し、1つは外科器具用、1つは印象トレー用としております。診療室に設置したブルーのキャビネットは、診療器具用です。

当院準備室における滅菌消毒

(1) オゾン水(ピュアトロンO3)による一次洗浄と消毒

患者さんのお口の中に触れる診療器具は、洗浄できるものはすべて、当院では最初にオゾン水によって洗浄・消毒します。オゾン水生成装置であるピュアトロンO3によって、除菌、洗浄、脱臭効果に優れ、人体に優しく、また、環境汚染の心配もないオゾン水が水道の蛇口を開くだけで生成され、使用できます。オゾン水の原料は水道水と空気中のオゾンのみで、薬品を使用しません。ほとんどの微生物は、オゾン水に触れると瞬時に殺菌されます。なお、オゾン水は約5分で分解され、無害な水にもどります。

(2)消毒薬を入れた超音波洗浄器による二次洗浄

当院は大型と小型の超音波洗浄器が1台ずつあります。一次洗浄が終わった器具は、目に見えない細かな汚れを取るために、ラスノソニックなどの消毒薬に浸けて超音波洗浄します。

(3)高圧蒸気滅菌器(オートクレーブ)

ヨーロッパ最高基準のClass B高圧蒸気滅菌器、Lisaを設置しました。これは滅菌バックで包装されたものの中までも確実に滅菌します。

(4)オイルライザー

タービン・ハンドピース類は患者さん毎に交換し、オイルライザーを使用します。オイルライザーは、120°C、4分間、パラフィンオイルによって、器具の内部まで完全殺菌します。

(5)次亜塩素酸

次亜塩素酸はすぐれた殺菌作用がありますが、金属を腐食させてしまうという欠点がありますので、金属以外のプラスチックやガラスなどを、高濃度の次亜塩素酸によって滅菌消毒します。

診療室における滅菌消毒

(1)ユニットの消毒

1人治療が終わる毎に、オゾン水を容器にたっぷり汲んできて、ユニットを消毒します。ライト、うがいの流し、タービン・ハンドピースのホースやそれらが触れる場所、コントロールパネル、3ウェイシリンジ、口腔内吸引、口腔外吸引など、術者やアシスタントが触れたところだけでなく、飛沫が付着したと考えられるところはすべて、オゾン水でしっかり消毒します。オゾン水には強い殺菌作用がありますが、5分たつと分解して無害な水に戻るため、人体や器具に優しい消毒法です。

(2)チェアサイドの乾熱滅菌器

診療中に必要が生じた各種の綿球は、その場でガラスビーズ式の乾熱滅菌器(キングフィッシャー21)で180~230°C乾熱滅菌します。